

平成22年度事業報告

1. 事業概要

国の景気が低迷している状況下で、雇用情勢の悪化や個人消費が低調であり、内需の回復の見通しが立たない中、景気の動向で左右されるセンターの事業運営は、例年にも増して厳しい環境となりました。センター事業にとって地域経済の停滞は会員の仕事の減少や就業機会を提供するための受注開拓活動にも大きな影響を及ぼしております。

このような状況の中、センターでは事業計画に基づき、受注・就業機会の拡大に向けた役職員による発注者への訪問活動の実施や、自治会・福祉団体の会合での入会説明を行い会員増強を図るなどの事業運営を進めてまいりましたが、直ちに事業実績の回復には繋がらないのが現状であります。就業機会の減少と就業を希望する会員の増加という不均衡の解消には時間がかかると思われますが、引き続き取り組んでまいります。

平成22年度末の会員数は、前年度より9人減の1,695人となりました。事業実績では、受託件数は、4,733件(前年比257件、5.7%増)の増となったものの、就業受託金額が712,510,420円(前年比61,032,218円、7.9%減)就業延人員は189,707人(前年比10,622人、5.3%減)となり、いずれも前年度を下回る結果となりました。

なお、新たな公益法人への移行につきましては、関係機関と連携を図りながら、申請手続きを進めているところであります。

2. 事業実施状況

(1) 会員・就業機会の確保

- ① センター事業の周知や会員増強・受注拡大の為の普及啓発活動として、地域社会・民間事業所などへの認知度を高めるために、ホームページの内容充実を図り、定期的な更新と必要な情報の提供に努めました。
- ② 関連団体の各種イベントに参加し、地域社会との交流に努めながらパンフレットやチラシの配布を行い、普及啓発活動を積極的に行いました。
- ③ 依頼先の民間事業所へ役職員が訪問し、高齢者の就業について理解を求め受注確保・拡大に努めました。
- ④ 入会説明会の準備を進め、新規入会希望者を対象とした説明会を実施しました。

(2) 会員活動の充実

- ① 駐輪場管理や公共施設管理に就業している会員を対象に、接遇力向上研修

を実施しました。6日間で延11回、合計365人が参加し、「コミュニケーションの基本と苦情の防止」をテーマに、様々な状況に対応出来るよう知識を会得しました。

- ② 会員のボランティア団体「くすの木会」については、江戸川クリーン作戦（5月）・千葉国体（9月）・行徳まつり（10月）・還暦式（11月）の各イベントで清掃や受付・案内係などの活動を行いました。
- ③ 会員による囲碁・手工芸・料理・表装の同好会活動を支援しました。

（3）安全就業対策

- ① 安全委員会を中心に事故分析や事故防止策を立案するとともに、就業先巡回視察による現場での安全指導など、会員の安全就業の確保に努めました。
- ② 会員が健全に就業する為に、会報を通じて「適正な就業に向けての心得」を周知しました。また、千葉県シルバー人材センター連合会から講師を招き「会員の安全意識の向上について」をテーマにした講演会を実施しました。
- ③ 千葉県シルバー人材センター連合会主催の研修会に参加し、さらなる知識や情報を得て周知に努めました。

（4）適正な就業

- ① 安全就業適正基準に基づき、シルバー人材センターにふさわしい就業を行うため、契約内容と会員の就業状況を再確認し、就業先と協議しながら適正な就業を図りました。
- ② 多様な人材ニーズに的確に対応するために、会員へ就業状況相談書を送付し職歴・資格免許・特技趣味等を自己申告してもらうことにより、適正就業に努めました。

（5）事業推進体制の強化

- ① 長引く不況の影響による事業実績収入の減少や、事業仕分けによる国庫補助金の削減などの経営環境を考慮し、事務費率の引き上げ及び会費の見直しについて検討しました。
- ② 役職員資質向上の為に、全国シルバー人材センター事業協会や千葉県シルバー人材センター連合会等が主催する研修会に参加して知識を習得し、役員の責務について再確認し、実務遂行者として日常業務の円滑な執行に努めました。また、他市のセンターとの情報交換を積極的に行い、事業運営に取り入れました。
- ③ 公益法人制度改革に関する研修会・勉強会に参加して、情報収集や指導を受け、移行申請の準備を進めました。
- ④ 理事会・各委員会活動等では、活発な意見交換を行い、センターの事業運営に役員及び会員も積極的に参加しました。